



2024年度 活動報告書



SNS活動紹介



オルタ スキー体験



伊那まつり龍の舞



ドラ盆踊りフェス



バラファッションショー



さくら高校作品



伊那とりどり祭



〒396-0025 長野県伊那市荒井3500-1

伊那市生涯学習センター5F

TEL/FAX:0265-76-7627

E-mail:info@kksc.org

【2024年度 総括】

2024年度は、新たにスタートした信州フリースクール認証に登録をした1年となりました。

官民共同でこの仕組みを作っていこうというなか、はみんぐとしても新たなチャレンジとなりました。

信州フリースクール認証の対象となる小中学生の居場所「オルタ」の事業は、はみんぐとして「義務教育が無償化しているのであるならば、この活動も同等であるべきだ」という信念を貫き活動を続けてきた事業であります。そのため、この新しい制度は大変ありがたく感じる半面、書類整備等の事務手続きや金額の少なさに今後の運営をどのように継続していけるかを真剣に考えていかねばならない現状です。今後も現場のスタッフや利用をしてくれている子どもたち、保護者の皆様とよく相談をし、決断をしていかねばならないと感じております。

さくら国際高等学校 伊那キャンパスは、19名の生徒の卒業を見送りました。卒業式のなかで、卒業生一人ひとりが自分の言葉で、これまでの小学校や中学校での体験、高校生活の想いが込めて語る「一人一言」を聴いて、スタッフ一同、涙を流しました。

伊那キャンパスは3年前から、体験や人との関りを大事にする高校として、生徒たちの様々な力を育んでいきたいと力を入れて取り組んできました。今年度卒業した生徒たちはその1期生でもあります。

日々の授業においては、30名近く登録していただいている伊那キャンパスの先生方がマンツーマン及び小集団の授業を生徒に寄り添いながら積み上げていただきました。学年担当の先生方は、定期的にHRを行い、同じ学年同士の仲間が交流する場を作ってきました。そのおかげで、3年生はキャンプへ行き、文化祭では学年として映画を撮影し、みんなの前で発表することができました。文化祭の最終日には、高校生活の忘れられない思い出と、かけがえのない仲間を得ることができたと涙する3年生もいました。活動の場に来ることができない生徒もおりましたが、生徒相談員を中心に生徒と対話する場を丁寧に設け、卒業の日を迎えることができました。

若者の居場所「おるら」は、活動場所がアルラ1階へと移りました。毎回10名近くの参加者がおり、交流を楽しんでいます。素晴らしいスタッフにも恵まれて週1回ではありますが、素敵な活動が継続できています。南信サポートネットとの協働の事業として、しばらくは現状でこの活動を継続していければと考えています。

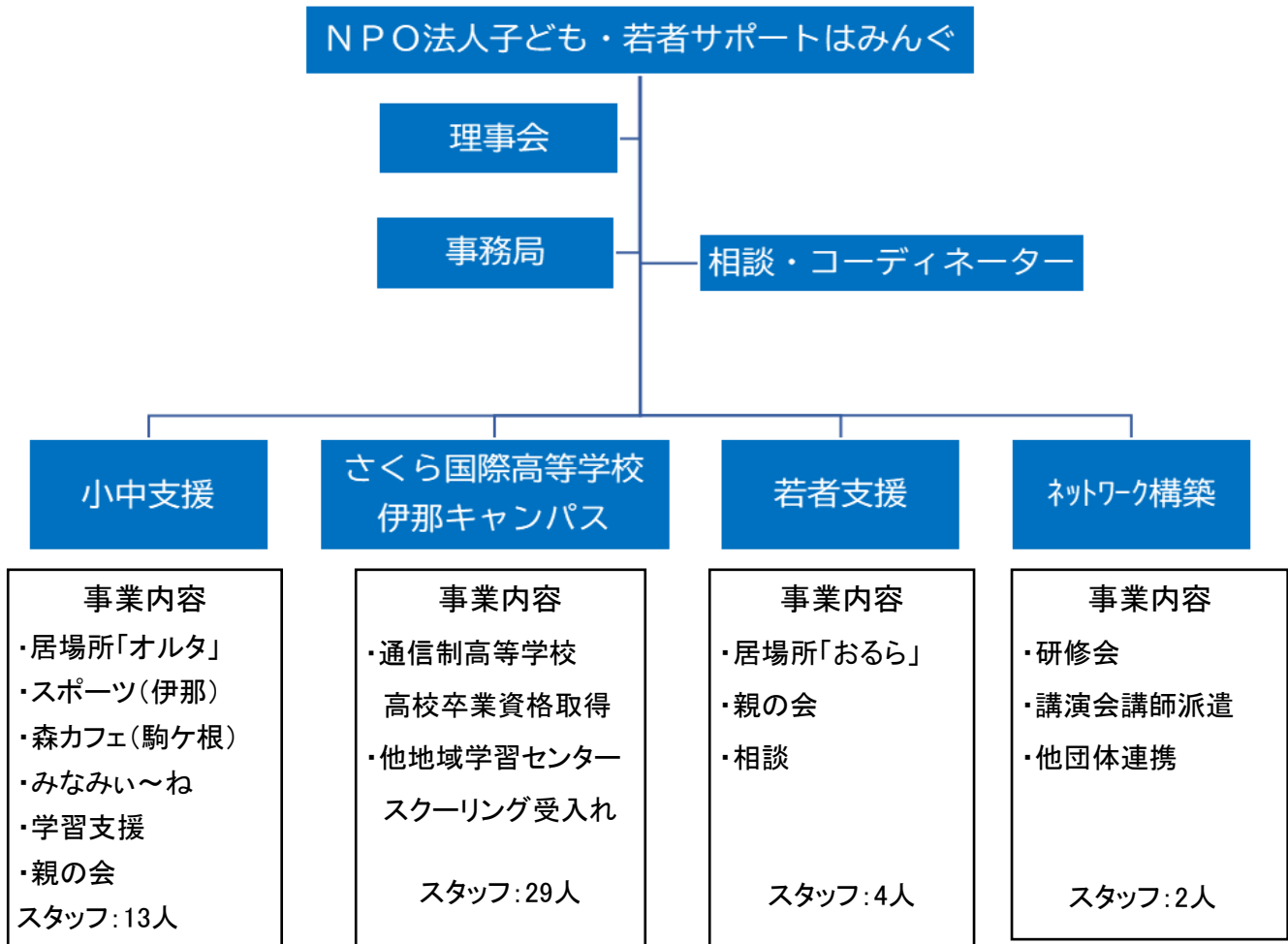
組織としても、基盤強化を進めてきました。会計担当の再配置、スタッフの傷害保険、社会保険、労働保険や雇用契約書等の見直しと整備をしてきました。また、スタッフとの個人面談を行い一人ひとりの想いや共に今後目指していくビジョンを共有しました。日々のスケジュール等は、アプリを活用して情報共有をしました。それと同時に、日常的な会話やスタッフ同士の交流会(野外活動、手作り会食会等)を実施して、風通しの良い、人の温もりのある組織を目指しました。

【2025年度 抱負】

5年後2030年の伊那北高等学校と弥生ヶ丘高等学校の合併後の弥生ヶ丘高等学校の跡地に、はみんぐの活動拠点を移転して、発展させていくことを目指しています。そこでは、多様な世代の人が集い、お互い関わり合い、学び合いながら成長できる新たな上伊那地域の教育、学びの場を創造していきたいと考えています。

2025年1月には官民協創の伊那市新しいまちづくり協議会の1回目が実施され、伊那弥生ヶ丘高校の将来活用について話されました。2025年の12月には、プレゼンテーション大会が実施される予定となっており、そこでプレゼンテーションができるように準備していきたいと考えています。

組織図 スタッフ数



相談・支援 コーディネート状況

● 支援児童・生徒・若者 実人数

2025年3月31日現在

自治体名		伊那市	南箕輪村	箕輪町	宮田村	駒ヶ根市	飯島町	中川村	辰野町	その他	合計
小 中		26	0	2	0	22				2	52
中学卒											0
さくら国際高校	1 年	11	1	0	3	3	0	0	0		18
	2 年	11	0	1	0	1	0	0	1		14
	3 年	12	0	4	1	3	0	0	1		21
	卒業生								0		
若者の居場所	居場所	22	3	2		4	1		5		37
	合 計	82	4	9	4	33	1	0	7	2	142
	比 率	58%	3%	6%	3%	23%	1%		5%	1%	100%

(1)利用者数

回数 利用延べ人数 平均利用者数

事業名	開催回数	利用延べ人数 (こども)	利用延べ人数 (保護者等)	参加者総数	平均利用者数
①居場所 オルタ	88回	1,053人			12.0人
☒※1スポーツ 伊那市内	44回	372人			8.5人
③※2自然体験 駒ヶ根市内	30回	190人	146人	336人	11.2人
④駒ヶ根居場所 みなみ～ね	42回	329人	313人	642人	15.3人

※1 昨年は、水・金の午後スポーツとしたが、今年度は、金を居場所活動に含め、水のみスポーツとした。

※2 自然体験は、大人参加者も含む。

(2)活動時間と内容

①居場所(オルタ) 月曜日・金曜日 10:00～15:00

調理活動11回、制作活動2回、七夕飾り、ハロウィン、クリスマス会、ダンス、文化祭、餅つき、卒業式、他施設での活動(みはらしファーム パン作り、プラネタリウム鑑賞、旭座映画鑑賞)

②スポーツ(伊那市民体育館と伊那市内公園) 水曜日13:00～15:00

バドミントン・卓球・バスケット・バレー・ドッチボール、鬼ごっこ等、
伊那市内公園でマレットゴルフ・川遊び・フィールドアスレチック等(1回)、スキー1回・高遠まち歩き参加

③自然体験(駒ヶ根市キャンプセンター)森カフェ 木曜日12:00～16:00

サイクリング3回(内1回は諏訪湖1周)、駒ヶ根キャンプセンターでの焚き火体験、生き物探し2回、スキー1回
親子登山1回・川遊び・アサギマダラ観察(宮田村公園)・ファイヤーサイドでたき火体験

④親子の居場所「みなみい～ね」(みなみ子ども交流センター) 水曜日他10:00～12:00

駒ヶ根市教育長をはじめ教育委員会の方々や市議会議員方々と「親の会」との懇談会を開催していただき、不登校児童生徒の子ども・保護者の思いを伝えることができました。それをきっかけに、みなみ子ども交流センター(放課後等の学童クラブ)の使用時間外の午前中に親子の居場所「みなみ～ね」をスタートさせることができた。

みなみい～ねの活動は、基本的には、思い思いにやりたいことをして過ごしなが、クレープ作り、焼いも会、クリスマス会、餅つき等の体験活動も実施した。

子ども達の様子から

学校に行くことができなくても、今はまだ人や社会と繋がるのが苦手でも、少しずつ進んだり、立ち止まったり、またはちょっと後ろに戻ったりしながらも、着実に前に進もうとしている子ども達。これまで蓄えてきたエネルギーを、それぞれのペースで放出しながら、日々を過ごしている様子が見られます。私達スタッフは、それを根気よく見守り続ける。そして、その子に合ったタイミングで、必要な時が来たら少しだけ背中を押す。そのタイミングや背中への押し方の微調整がなかなか難しく、うまくいく時といかない時がありますが、しかし、うまくいった時の子どもの進化、変化には目を見張るものがあります。人との関わりが苦手な、学校に行き渋っていた子ども達が、人との関わりによって見違えるように成長していく。こういった姿を間近で見られることは、私達大人にとっても、とても貴重な経験です。

このような進化、変化の中で、これまで温存していたエネルギーが、一気に噴き出すこともあれば、徐々に染み渡るように広がっていく場合もあります。そして、その先も運よくそのまま進んでいく場合もあれば、また後ろに戻る場合など、人により様々なパターンがありますが、どのような経験も長い人生において「自分にとって必要なものなんだ」と捉えることができれば、今抱えている生きづらさも少しだけ軽減できるのかな、と感じます。

人との関わりや体験活動などを通して、生きていく力を蓄えていく、そしてそれを上手く放出できるタイミングを自分でも見極めて、コントロールできるようになる。子ども達のこのような姿から、私達も生きていく力を貰いつつ、こういったサポートを継続的に繋げていけるように、今後も活動していきたいと考えています。

今年度より、駒ヶ根市のみなみ子ども交流センターを会場に親子の居場所が誕生しました。



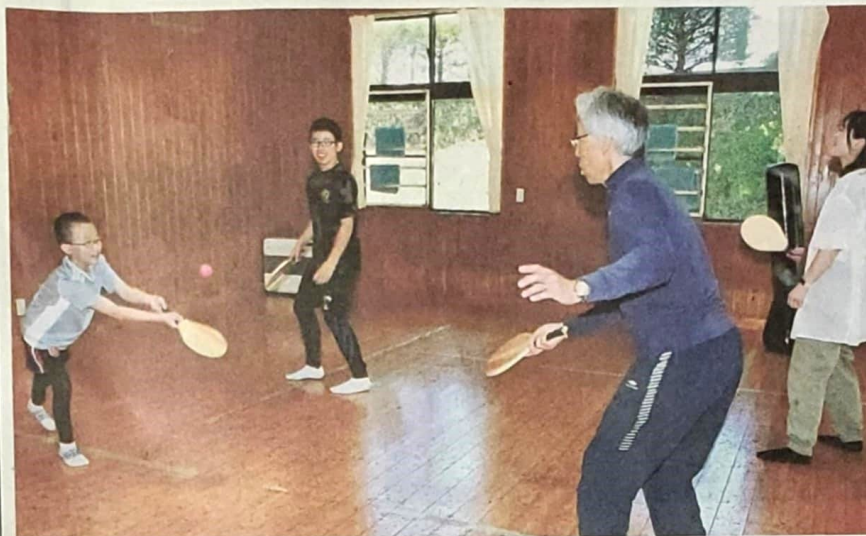
17 地域

2024年(令和6年)6月5日 水曜日

信濃毎日

飯田 伊那

平日に遊べる場「子どもの心のよりどころに」



みなみ子ども交流センターで遊ぶ子どもら

駒ヶ根に開設

駒ヶ根市の不登校や登園をしづる子どもの親でつくる「てんとうむしの会」は、平日でも子どもたちが遊べる場所を提供する取り組みを開始した。市赤穂南小学校近くの「みなみ子ども交流センター」を、水曜日の午前9時～正午に開放。同会は「子どもたちの心のよりどころになる場所をつくる第一歩にしたい」としている。

同会は2021年に発足。保護者有志3人で運営し、不登校に関する情報や悩みを共有する交流会や勉強会を月に

1回、開いている。その中で、学校以外の場所でも子どもが思い切り遊べる場所をつくりたいと考えるように。市教育委員会の協力も得て、5月15日に取り組みを開始した。市内外を問わず保育園から高校生の子とも、その保護者が利用可能。同会の保護者がセンターに滞在し、市教委の職員も見守る。バドミントンなどの運動や、ボードゲームなどで遊べるという。無料だが、小学生以下は保護者の同伴が必要となっている。

居場所オルタ① 活動の様子 (毎週月曜日・金曜日)



オルタではみんなでカードゲームを楽しんだり、月1回の調理活動をやってきました。

今年度はカレー・やきそば・お好み焼きなど昼食づくりを中心にハロウィン用お菓子づくりなどもしました。餅つきなどの季節の行事やバスに乗り高遠の街歩きなども行いました。

午後は多目的室で各自やりたい運動にしたり、みんなでドッチボールやフルーツバスケットなどもしました。



居場所オルタ② 伊那まつり はみんぐ連 8月



昨年に引き続き、8月の伊那まつりに、はみんぐ連としてオルタからも参加しました。

オルタ・さくら・おるらの子ども・若者たちが一つになってドラゴン踊りを踊りました。

居場所オルタ③ ハロウィン *オルタフェス(文化祭) *卒業式

10月には、ハロウィン、12月に文化祭(オルタフェス)を開き、家族や友達を招待し、手作りゲーム大会やダンス発表をしました。喫茶では、お菓子の準備をして、当日は接客を協力して行いました。今年で3回目になるので、みんな接客もうまくなり、ゲーム進行や司会も自分たちでできるようになりました。60人を超える参加者で大変にぎわいました。



はみ×スポ 活動の様子 (毎週水曜日)



水曜日の午後は伊那市民体育館で身体を動かしました。それぞれがやりたいスポーツを行ったり、時間を決めて、はみんな、ソフトバレーやドッチボール、サッカー、バスケットを楽しみました。

8月21日には、大芝公園でアスレチックをしたり、虫を探したりと野外でのびのびと過ごしました。2月には、例年のように伊那スキーリゾートで



スキー・スノボ体験も行いました。

参加者も増え、みんなで時間を忘れるほど滑りを楽しみました。

今年は始めて10月30日に、みんなで運動会を行いました。玉入れや大玉送り、借り物競走などとして楽しみました。

はみ×スポ運動会 (2024.10.30)



駒ヶ根 森カフェ (木曜日)



駒ヶ根の森カフェ(自然体験)は、駒ヶ根キャンプセンターを使用して、たき火を囲んで子どもだけでなく大人も、自分たちで火をつけ食材を焼き、ゆったりとした時間を楽しみました。火おこしやマッチでの着火を体験し、薪割りも自分たちでできるようになりました。たき火だけでなく、駒ヶ根高原周辺や諏訪湖1週サイクリング、冬の生き物探し、川遊び、親子で山歩きなど自然を満喫しました。2月にはスキー・ソリ教室を駒ヶ根高原スキー場で行い、初心者の子も滑れるようになり、時間がたつのを忘れるほど滑りました。



駒ヶ根 みなみい〜ね (月・水・金)



今年度より学童クラブの施設を午前中お借りして、駒ヶ根の親の会に協力して子どもたちの居場所を行いました。

案内チラシやSNS、口コミで利用者が増え、一緒に身体を動かし、ゲームをしてつながり、友との関わりが生まれてきました。

調理活動やクリスマス会、焼き芋などして楽しむこともできました。

保護者が悩みを共有したり、情報交換できる場ともなり、保護者もリラックスして過ごすことができました。



学習支援

1回 60分 マンツーマンによる学習支援

週1回、月4回として実施

1回 1,000円 チケット制

実施地域：伊那市

支援回数：61回

利用児童生徒：3名

本人の希望や体調に合わせて実施した。

親の会 (伊那市・駒ヶ根市・中川村)

伊那親の会

開催日：毎月第1, 3火曜日 夜間、昼間で実施

会場：オルタ、はみんぐ事務所 他

駒ヶ根 親の会

開催日：毎月第2水曜日 13:30~15:30

会場：赤穂公民館

中川村 親の会

開催日

・偶数月 第4金曜日 19:30~22:00

・奇数月 第4火曜日 18:30~21:00

会場：中川村文化会館

延べ参加者数 245人



令和6年度

令和6年度は、新たに18名の生徒を受け入れ、全校で53名で学校活動を行いました。今年度も一人ひとりと真摯に向き合い指導をしました。今年度からは特に学年の活動が増えました。3学年はキャンプへ行き、文化祭では映画を撮影し上映する等、高校生活の心に残る体験をすることができました。毎月HRを実施し、計画、準備を進めました。卒業式では、1年生の頃は人前で話すことが難しかった生徒がみんなの前で話することもできました。生徒の成長していく力と、先生方の一人ひとりへの献身的な対応が実を結ぶかたちとなって現れた日でもあり、職員一同涙を流しました。

2年生、1年生も学年の活動をそれぞれ積極的に行いました。また、生徒会においては球技大会を初めて実施しました。生徒会は毎週のように活動をし、みんなが楽しめるにはどんな球技大会にしたらよいか話し合い、点数をつけず、競技も自分の参加したい種目に自由に参加できるように工夫をし実施となりました。先生も合わせると50名以上の参加者となり、大成功の企画となりました。



4月8日 入学式



オリエンテーション



授業風景 マンツーマン授業



書道 集団授業



総合学習



7月17日 生徒会 球技大会



10/25(木)～ 26日 文化祭（桜蘭祭）

学年活動

3学年

2学年

1学年



▲キャンプ



▲ハリー・ポッター スタジオ ツアー東京



▲春日公園 お花見



▲瑞浪市化石博物館



▲保育園訪問



▲上田本校訪問



3/6(木) 卒業式 令和6年度は、19名が卒業しました。

3年生の進路状況

令和6年度在籍者生徒数：50名

所 属	人数
1年生	18
2年生	14
3年生	21
合 計	53

進 学	4年制大学	1
	短期大学	1
	専門学校	3
就 職	県外	0
	県内	5
自 営		0
アルバイト		3
その他		8
		21

※ その他：進路未定、家事手伝い、次年度在籍 他

【卒業文集「はるかぜ」より】

確かな船出 おめでとう

NPO法人子ども・若者サポートはみんぐ 副理事長 春日幸雄

私は、退職後、ポニー飼育を中心とした「パカパカ塾」をやってきました。この塾の目標は、「相手の気持ちを理解し、その人の考えを推しはかることができる」と考えてきました。これは、パカパカ塾だけでなく、さくら国際高校 伊那キャンパスでも大切なことじゃないかとも考えてきました。

こう考えているなかで、今年(2024年度)の入学式を迎えました。

この式のなかで私は、非常に感動を受けました。

それは、新入生を迎える挨拶をした生徒会長K君のことばでした。

彼は、自分が入学した時の様子をしっかり思い浮かべながら、さくら高校の特徴、気をつけること、いろんな体験が必要なこと、大勢の人と関われるアルバイトもいいぞ、高校生活は思ったより速く過ぎる、自分の夢を見つけて後悔のない生活を送ろうとあたたかい言葉をかけたのです。その彼の心は、新入生に想いを寄せたやさしさ、思いやりの深さでいっぱいでした。

こうした人が、一年前にさくら高校に出現したのです。

私は、うんとうれしくなりました。なぜなら、彼を取り巻く人たちも必ずや彼と同じように成長してくれると信じられたからです。

だから、今年は皆さんの総合的な活動には、できるだけ参加させてもらってきました。

今までとちがっていたなあと思ったことは、

- ◎ 活動に参加する生徒が抜群に増えていたこと
- ◎ 参加した生徒のほとんどがハキハキした元気がたくさんあったこと
- ◎ 活動の仕方が、人まかせでなく自らすすんで活動を盛り上げていたなどです。

こうしたすばらしい質的にも変化した足跡を残された卒業生の皆さん、必ずや後輩たちにその姿は受け継がれていくと思います。 ありがとうございます。

若者の居場所「おるら」

【若者の居場所おるらの運営】

はみんぐでは、さまざまな理由で社会との繋がりにくさを持つ若者の孤立を防ぎ、あるがままの本人を受け入れ、安心して過ごせる場として、若者の居場所おるらを運営しています。24年度は、秋から居場所の会場を、今までの一軒家から、小中の子どもの居場所オルタに移して開くことになりましたが、卓球ができたり、スペースも広くなり、利用者の数も増えました。義務教育終了後の15歳以上の若者を対象としていますが、利用者の年齢制限は緩やかで、中高生から年配の方までの多世代の交流が生まれました。

また当事者のご家族を支えるために、毎月おるら親の会も開催しています。

【24年度 居場所おるら 利用実績】

◆開催日	時間	利用者数（延べ）	開催数
◆居場所	毎週 火曜日 13：30～17：30	382人	49回
◆親の会	毎月 第2火曜日 10：00～12：00	15人	10回

※25年度から、毎週木曜日開催に変更しました。



24年度も引き続き、スタッフ2名の他に、毎月1回、ピアサポートスタッフが来所し、相談を受けたり当事者の目線からも利用者の皆さんのサポートを行うことができました。

また長野県南信子ども若者サポートネットと連携し、居場所運営を行いました。

居場所を運営する中で、何年か振りに利用を再開してくれる方がいたり、利用者さん同士の繋がりができ情報交換する中で、次のステップに繋がるという場面もあり、居場所を継続することの大切さを実感しています。

若者の居場所「おるら」の様子



10月から卓球もできます



たまには街散歩も



ボードゲームを楽しんだり



楽しくおしゃべり

研修会・講演会 講師派遣

今年度も、県内、県外からの要請に応じて、当法人の高橋泰宏さんが、人権問題・発達障がい・精神障がい・LGBTQ等の研修会、講演会の講師を務めました。小学校から大学までの子ども・若者や行政職員、地域住民にとって当事者の声を聴く貴重な機会であることはもとより、学校内で生きづらさを抱えている子どもたちにとっても希望の灯を灯すことができています。それは、講演後のアンケートからも実感することです。今後も、各地の方々と深い学びの時を持っていきたいと思います。

【講師(高橋泰宏)プロフィール】

はみんぐ講師・若者の居場所ピアスタッフ

飯田市生まれ。高校時代に不登校を経験。2007年、社会人の時、職場同僚との人間関係のトラブルから、精神疾患を発症。休職、ひきこもりを経て、2012年退職。2013年4月より、「上伊那圏域障がい者総合支援センターきらりあ」にて、3年間ピアカウンセラーとして勤務。2019年4月より、「NPO法人子ども・若者サポートはみんぐ」で若者の居場所のピアサポートスタッフ、2020年4月より、長野県ピアサポートネットワーク役員。WRAP(元気回復行動プラン)ファシリテーターとしても活動。

【研修・講演実績】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
2回	1回	2回	1回	3回	8回	3回	17回	7回	4回	5回	3回	56回

【研修・講演先】

日本福祉大学(美浜キャンパス)・松本市内小中学校・上田市内小中学校・富士見高等学校・長野県看護大学・飯田市内小中学校・飯島町内小中学校・辰野高等学校(福祉コース2年生)・池田工業高等学校・上伊那教育会・大桑村中学校・チャイルドライン中信受け手ボランティア養成講座・地球環境高等学校・中川村人権男女共同参画講演会 飯島町喫茶もあい・喬木村中学校1年生・高遠高校福祉コース・南木曾中学校・信州木曾看護専門学校・須坂市内小学校・千曲市内中学校 他



12/4(水)

令和6年度中川村人権・男女共同参画講演会

NPO法人子ども・若者サポートはみんぐの高橋泰宏さんをお招きし、「知っていますか？ 子どもの権利～子どもを見つめる、子どもから学ぶ～」と題し、講演いただきました。

そもそも子どもの権利とは何か、高橋さん自身の不登校の経験や若者の居場所作りに励む中で出会った子どもたちとのエピソードを交えながらご説明いただき、違いを認め合い安心して暮らせる地域になるためにも、まず大人が自分の権利を自覚し、一人ひとりが心の余裕を取り戻していく必要があることを学びました。

取材にとんでいきます

伊那

しんぶん

026572・3016

クリエイター講座 高校生ら学ぶ

石田健祐さん②から映像制作について学ぶ高校生ら

「何が起きているのか」というような演出を挙げれば、さまざまなアングルで撮る左右にカメラを振つかなどを伝えた。

映像は石田さんのアフレコしながら投稿していいというので、探究の活動などでイロイロな動画をアップしている強力な動画を作りなすことを詳しく知りたて、意欲的に参加して（高木政雄）

トカゲが大事な

↑伊那商工会議所主催の伊那まちを映像でPRするためのクリエイター講座に参加しました。

→伊那まちBASEの子ども们的には、高校生スタッフとして子どもたちと楽しく過ごしています。

子どもたち



所「地域の支援と
伊那市市民の交遊拠点。伊那ま
ちASE（エー・エス）が、来年
度で運営費をクラウドファンデ
イング（C.F.）でまわっている。開
所から4年を数えている。アテ
所としての定着しつつある。市
場としての資金や、穀利業者のド
リク代代では、運営費を賄えてい
ない。運営人増しの戸数を求
め、67は、地域の戸数を求め
て、近々、協力戸増かたいてい。
ペースは2012年1月、J R
伊那駅駅舎の商店街に開所し、
住の創業によるNPO法、運営費
の創業から、民間の運営費
は、本財団の助成を充て、昨年
度は1人を使った、2人ライ
の居場所への」の、主なる事業に

伊那まちBASE 資金募るCF



ため、国の助成度も受
け、度はこれらの助成金が
転入事業状態（戸校
間）で、活動の幹事は広
二、三、ほど前がスマ
講座レコード、鑑賞会
シニア層を中心に参
り、子どもたちでなく
の居場所になつてく
る、まずは今年度で
たい」とする。

＝ウェブサイト「野黒み
＝「ROQコード」で算
000万円、子ども回
用で充てたことで、戸
る大人も出会い、
心を通わせる機会
を提供したい」と

不登校の子に居場所と出番を

[illegible]

原点は自らの子育て 若者支える活動けん引

100

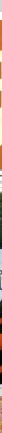
料金垂
冊一

金後郵便
子小

A vertical strip of three images. The top image shows a traditional Japanese building with a tiled roof. The middle image shows a man in an orange shirt. The bottom image shows a person in a blue shirt.

納包

信頼でき
社会、
天



A group of children and adults are holding a banner that reads "NATOR" and "NATOR". The banner is white with red and yellow text. The children are wearing colorful clothing, and the adults are wearing orange shirts. The background is a green field.

A man in an orange shirt is holding a framed calligraphy scroll. The scroll features a large, bold character, likely '福' (Fuk), which is part of the 'Fukunishi' brand mentioned in the text. The background shows a blurred outdoor setting with trees and a building.

からスマ
監査会

会報
2022
No.1



堀野は広
長
最
4
584

長野県

那市

↑伊那商工会議所主催の17とりどり祭にさくらの生徒が参加しました。

信州型フリースクール認証制度について 思うこと

NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ 理事長 戸枝 智子



2024年度に信州型フリースクール認証制度がスタートしました。これは、長野県が増加する不登校児童生徒等の多様な学びの場の確保・充実を図るため、県内のフリースクール等民間施設を認証し、財政支援等を実施することを目的に創設しました。NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐでも 不登校児童生徒の居場所「オルタ」等の活動に対してフリースクール認証を申請して認証を受けて活動しています。はみんぐは、2003年に長野県教育委員会が実施した、民間主導による官民協働の不登校支援策「長野県子どもサポートプラン」で上伊那をエリアとして生まれた団体です。長野県子どもサポートプランは、たった3年間で終了してしまい、そのあとは、任意団体、NPO 法人として何とか活動してきました。あれから20年を経て、再び官民協働による不登校支援が始まりました。

また、前年度の2023年度より、「信州学び円卓会議」も始まりました。会議の様子や「ともつくフォーラム（学びの「新しい当たり前」を共に創るフォーラム）」の様子も動画配信されているので、子どもたちの多様な学びについて、また、不登校児童生徒の学ぶ権利について考える機会をたくさんいただきました。また、長野県教委は、ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）を指定し、学校の仕組み改革に取り組もうとしていることも知りました。長野県は本当に変わるかも知れないという期待感が少し芽生えてきています。そんなことを踏まえながら、不登校の子どもたちの居場所と学びについて今の私の思いを述べてみたいと思います。

運営してきましたが、利用料の受益者負担には大きな抵抗感があり利用料無料のまま現在に至っています。

各自治体で、フリースクールに通う子どもに対して利用料の半額を補助するという動きが活発になっていますが、利用料ありきという考えは、不登校という状況の中で苦しむ家庭に対して、学校に行けないことは、自己責任だというメッセージとなり、更に苦しみを増大させると同時に教育格差を助長することになると思います。

「学校＝学び」という仕組みしかないからこそ、これまでは、不登校の子どもへの支援は、何としても学校復帰をさせてあげなければならないと考えて適応指導員を学校に配置したり「適応指導教室（中間教室）」の設置等で税金は使われてきたのですが、そこに、当事者の子どもたちは不在でした。そして、現在も学校は、日々不登校の子どもを生み出し続ける場となっているのが現実です。フリースクール認証制度の取り組みは大きな一歩だと思いますが、これからも学校が不登校で苦しむ子どもを生み出し続けるのであれば、どこまでいっても対症療法に過ぎません。子ども不在のフリースクール認証制度になったとき、子どもたちの逃げ場が無くなるということを肝に銘じなければなりません。

また、不登校の子どもたちの多くは、居場所やフリースクールに通わずに家で過ごしています。それもまた深い意味がある大切な姿です。自治体が金銭的に援助するというならすべての不登校の子どもたちに、教育費として何らかのかたちで税金を還元しなければいけないと思います（教育パウチャー制度等）。私た

子どもの学ぶ権利を保障する

国や自治体は、不登校の子どもたちの居場所やフリースペース、フリースクールに通うのに利用料がかかることについてなぜ疑問を持たないのでしょうか。フリースクールの利用料は、全国平均3万円/月だそうです。はみんぐは2004年から子どもたちのフリースペースを

公立中学校の児童・生徒一人あたり年間教育費の負担額（令和3年度）		
小学生	中学生	高校生（全日制）
		
約921,000円	約1,067,000円	約1,129,000円

国税庁HPより

ちは、子どもの学びを保障するとはどういうことかもっと深く考えなければいけないと思います。

NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐでは、通信制高校を運営していますが、小中で不登校だった子どもたちが、自分の人生を生きるために、学校で、「学び直し」と「出会い直し」をして成長していく姿から、私は、「学校を諦めてはいけない」と思うようになりました。また、「学校で受けた傷は、学校で癒すことができるんだ」と思えるようになりました。

通信制高校で成長して巣立っていく生徒たちとそれを支える先生方の姿を通して、学校に希望を見出すことができました。これは、私自身が子どもの頃から抱いてきた学校という場で受けたトラウマが癒される体験でもありました。

マジョリティとマイノリティの認識

不登校の児童生徒数が増えているとはいえ、まだまだ不登校の子どもや保護者は、マイノリティの存在です。大多数の登校している子どもを持つ保護者は、我が子が享受している教育の仕組みに何の疑問も持ちません。そのことは、私も、我が子が不登校になる前の自分を思い出せば、納得できます。しかし、「不登校で苦しんでいる児童生徒の教育費を、登校児童生徒が使ってしまったていいのか」という問題をもっと多

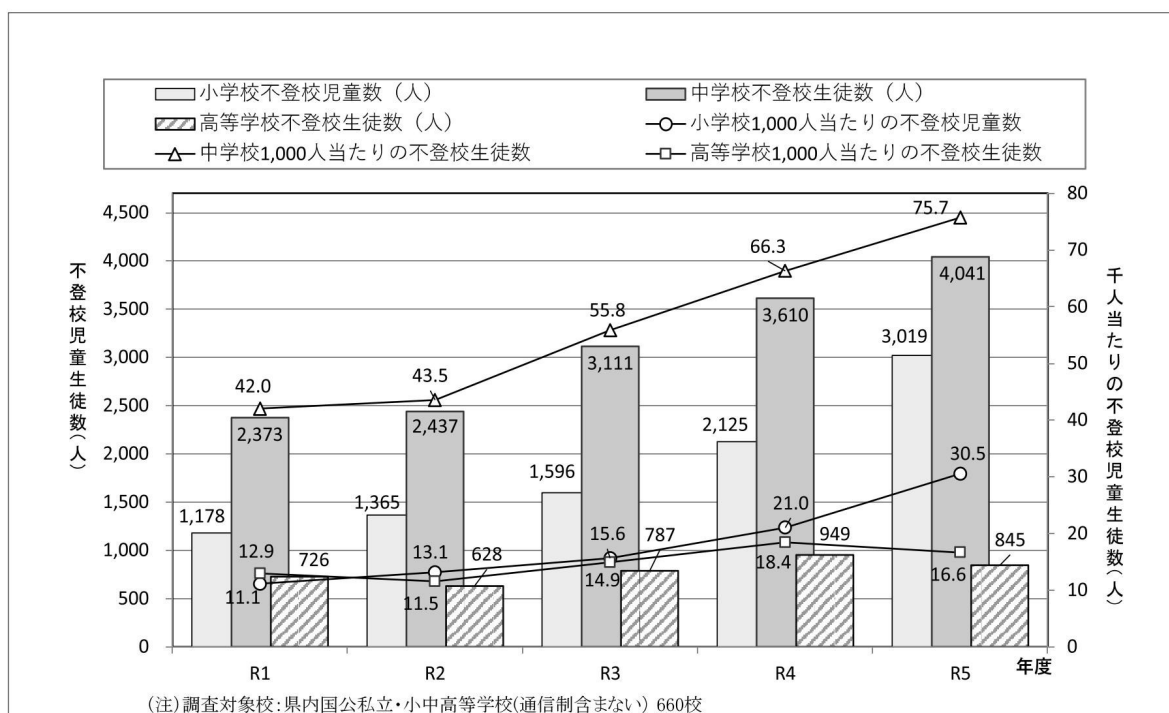
くの人たちと共有し、そのことについて語り合いたいと思います。マジョリティに身を置く者には、目の前にある現実が見えていないのだと気がつくことが重要です。

不登校の子どもたちの教育環境を整えることは、その子どもたちの未来だけでなく、社会全体の未来にも重要な影響を与えます。どんな状況になっても教育を受けられる権利が保障されている社会は、安心して生きられる社会です。私は、子どもに限らず、マイノリティの声を無視することのないインクルーシブ教育と生涯に渡って学ぶ機会を保障する生涯学習社会に憧れています。

私は今、あらためて、2012年の『長野の子ども白書』創刊号の「パイロットスクール（実験校）の提案」を書かれた北澤康吉先生の寄稿文に出会い直しています。私自身、今になってやっと先生の「学校の復権」への願いがストンと胸に落ちています。是非、北澤先生が貫いてこられた登校拒否への取り組みや深い造詣に関心のある方は、「北澤康吉 のぞみ学園」で検索してください。

最後に、北澤先生の「学校の復権」という文章の一部を尊敬と感謝の気持ちを込めて、引用させていただきます。先生は、今年、87才になられますが、不登校の子どもたちに関わる私たちに、ますます大きな愛と情熱を注ぎ、支えてくださっています。

長野県の不登校児童生徒数の推移



学校の復権

のぞみ学園 北澤康吉

「学校の復権」といったことを僕はしきりに思うのです。僕自身は学校大好き人間、学校大事人間で育ちました。国民学校1年生で敗戦でした。戦地帰りのささくれ立った先生方が何人もおりました。彼らにもいろいろ大変な混乱があったことでしょう。昭和20年代が僕の小・中・そして高校生活の大部分です。

その前半はいわゆる戦後の民主教育の風が爽やかに吹いた時代です。大事なものをいっぱい経験させてもらいました。いい先生に何人も出遇いました。混乱と貧困の時期だったとは言え、やはり教育にとって幸せな時代だったように思います。教育に夢がかけられる時代でした。（略）

平成元年より高校を退職し、学校を離れてこの仕事をやっております。相変わらず学校は子供にとって若者にとって家庭に匹敵する重要な場所だと僕は頑（かたく）なに思い込んでおります。「学校は必ず復権する」と思っております。子供や若者にとって学校は場合によっては家庭以上に安全・安心の場所です。

「知る喜び、解る喜び、創る喜び」を仲間と一緒にいっぱい経験できる素敵な場所だと思っております。その喜びを充分経験しなければ「まともな」大人になれないとさえ思っております。学校は再び（子どもにとっての）主役の座につかなければならないのです。

そのためには何が必要なのか。学校を復権させるカギは何なのか。それがそのままこの前半で述べた二つの状況の克服と重なります。

「知る喜び、わかる喜び、創る喜び」を保障するためには、ゆったりとした充分な時間の保障が必要です。競争原理とはおよそかけ離れたところに教育は立ち返らなければなりません。仲間と一緒にそれが出来る、本来学校とはそんな場所のはずです。人間のやることの中でも最も魅力的なことの出来る場所です。今日もいっぱいいろいろやった、明日もまたわくわくしながら出かけてこよう…学校はそんな場所です。（略）

「開かれた学校」への努力が為されております。学校の運営に生徒を含めた三者会議、四者会議をする所が出てきております。未来につながる大事な動きです。

登校拒否の理解についても「我々が拒否されたのだ」という反省に立たない限り、学校の新しい取り組みは始まりません。その認識に立てば必ず未来につながる素敵な展開が始るはずです。

フリースクール等新しい動きは次々と出てきますが、その中でいわゆる学校は充分に復権する余地を持っております。教育は金がかかるのです。本当の意味での「公教育」の存続は避けられないのです。僕はそのことに関してはかなり強い「こだわり」を持っております。

ただ、それはこれからのこと。10年くらいのスパンで展開していくことです。「すぐ間に合うように」というわけにはいきません。その間を一人のこぼれる諸君もなく通り過ぎなければならないのに、一体どのくらいの諸君を学校は、私たちは「こぼして」きたことでしょうか、「自殺」といったまこと辛い形などで。

どうしても行けなくなった諸君には無理をさせない。それだけでいいのです。「学校否定」等といったコワイものではないのです。「そうなった諸君について、しばらくの間」でいいのです。

時間はかかるけれど正確な認識と明るい確かな展望に基づく努力。そして同時に、今、登校拒否している諸君に対して「無理はさせない」という度量の大きさと柔軟さ。その二つが学校やそれに関わる者たちであれば、この現実を、学校や諸君がおかれている状況を克服できるはずです。

そのところに今、教育に関わるものが避けようもなく直面させられているのだと思います。

北澤康吉プロフィール… 1961年、京都大学文学部哲学科卒業、1963年 同大学院修士課程単位修了。
26年間長野県内高等学校で勤務、全日本カウンセリング協会認定カウンセラー（ロジャーズ流）
1989年 私財を投げ打って 駒ヶ根市で登校拒否の子を対象とした合宿設置「のぞみ学園」を開設
2006年～2009年 上伊那子どもサポートセンター 代表 （現 NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ）

NPO法人子ども・若者サポートはみんぐの歩み

私たちは、2003年に「上伊那子どもサポートセンター」を発足させ、不登校児童生徒の支援活動を開始しました。

しかし、活動開始後も子ども・若者を取り巻く環境は、度重なる災害・放射能問題・経済格差・新型コロナウイルスの感染拡大・不安定な世界情勢など、ますます厳しいものになっています。そのような環境の中で、子ども・若者は、様々な問題に直面し、将来に希望を描くことが困難な状況にあります。

私たちは、支援活動を通して人の生き方を問い、どのように子ども・若者の未来を創っていくべきかを真剣に考えてきました。そして、共に生きる社会のなかで、子ども・若者が様々な価値観や人格にふれ、自己肯定感を高めながら視野を広げて自立・成長できる環境を創りたいと思いました。

私たちは、一人ひとりの子ども・若者に寄り添った多様な自立支援を行なうとともに、本人・家族の孤立を防ぎ、だれにでも居場所と出番のある豊かで包容力のある地域社会の実現をめざしてこれからも歩んでいきます。



〔これまでの経過〕

- 2003年度 長野県教育委員会 民間主導の不登校支援策『子どもサポートプラン』実施により任意団体「上伊那子どもサポートセンター」発足 活動開始。（～2005年度）
- 2006年度 長野県教育委員会 『NPO等による不登校児童生徒支援事業』受託
- 2007年度 長野県教育委員会『不登校児童生徒支援ネットワーク整備事業』受託（～2009年度）
- 2007年度 広域通信高校「さくら国際高等学校 伊那学習相談センター」開設
- 2010年度 長野県教育委員会『笑顔で登校支援事業』受託（1年間）
- 2013年度 内閣府「新しい公共による居場所づくりのためのモデル事業」に採択される
上伊那子どもサポートセンターが運営主体となり、「若者参加のまちづくり協議会」を発足。その活動拠点として、「コミュニティ・カフェ セジュール」開所
- 2014年度 上伊那子どもサポートセンターと若者参加のまちづくりを統合した団体としてNPO法人設立を目指し準備会を発足
- 2016年度 NPO法人子ども若者サポートはみんぐ 設立
- 2017年度 長野県次世代サポート課「南信子ども・若者サポートネット事務局」受託（～2023年度まで）
- 2018年度 広域通信制高校「さくら国際高等学校 伊那キャンパス」開校
- 2019年度 信州子どもカフェ 上伊那子ども応援プラットフォーム事務局
- 2020年度 休眠預金助成事業「子どもの居場所とネットワーク推進事業」（～2022年度）
若者と産業が息づく拠点 allla(アルラ) 1Fに小中児童生徒の居場所「オルタ」を開設
- 2020年度 再開発による建物取り壊しのため「コミュニティ・カフェ セジュール」閉所
- 2022年度 広域通信制高校「さくら国際高等学校 桜橋学習センター」をallla(アルラ)に開設
⇒2023年度は、伊那キャンパスのみの体制で運営
- 2023年度 伊那市こどもの居場所ネットワーク発足（構成団体：フリーキッズ・はみんぐ・伊那まちBASE・たき火の団）
子どもの居場所をつなぐ「子ども送迎サービス こどもバスBINGO」の運行開始
伊那市教育委員会との定期的な意見交換会を開催（年4回）
- 2024年度 駒ヶ根市 みなみ子ども交流センターに「親子の居場所 みなみ～ね」を開設

ご協力・ご支援をいただいた皆様

- 正会員様（理事含む）14 名
- 賛助会員様 66 名
 - ・会費及び寄付総額： 539,629円
 - ・ご寄付いただいた皆様
 - ・伊那市
 - ・長野県みらいベース
- 伊那市生涯学習センター様
 - ・団体事務室 学習会場
- 公益社団法人 上伊那教育会様
 - ・学習会場
- 産業と若者が息づく拠点 alla（アルラ）様
 - ・居場所「オルタ」居場所「おるら」会場
- NPO法人伊那まちBASE様
 - ・居場所 さくらカフェ（連携）
- 認定NPO法人フリーキッズ・ヴィレッジ様
- （株）ファイヤー・サイド様
 - ・焚き火をとおした体験活動
- 駒ヶ根キャンプ場
 - ・森カフェ 会場
- 国際ソロプチミスト伊那様
 - ・さくら国際高校生徒 奨学金
- 郷土愛プロジェクト様
 - ・キャリア教育
- 地域の皆様 多様な学び講師他
- 地域おこし協力隊の皆様
- ♥ 他にも本当に多くの皆さんに、さまざまなかたちでのお力添えをいただきました。

はみんぐの活動は多くの支援を必要としています。皆様の応援が頼りです。

ご支援よろしくお願いします。

私たちのミッション

～すべての子ども・若者が自分の人生を生きられるために～

私たちは、生きづらさを抱えている子ども・若者が、夢と希望を持って未来を切り拓いていくお手伝いをすると共に、誰もが孤立することなく、安心して暮らしていける地域社会をめざして活動しています。

【はみんぐ会員制度について】

会 費：正会員：5,000円/年 賛助会員：3,000円/年

【会員登録・会費の方法】

- ① 事務所にご持参いただく or スタッフに手渡してください。
- ② 振込用紙にてお振込みください。

口座名：特定非営利活動法人子ども・若者サポートはみんぐ

振込先：八十二銀行 伊那市駅前支店 店番号 550 口座番号 349231

◆振り込んでいただきましたら、電話、FAX、メールでご連絡ください。

後日、こちらから領収書を送らせていただきます。

◆お気軽にお問合せ下さい。どうぞよろしくお願いします。

NPO法人子ども・若者サポートはみんぐ

〒396-0025 伊那市荒井3500-1 伊那市生涯学習センター5F

TEL/FAX：0265-76-7627

E-mail：info@kksc.org

